

B-18 台所用洗剤の適正使用に関する研究

花王生活科学研 ○ 鶴岡英樹 桑野純子

目的 台所用洗剤の目的は、食器などに付着するヨゴレを十分におとし、衛生的に保つことであるが、洗剤の持つ特性から洗剤の過剰な使用は無駄でもあり、好ましくない。従って、一般家庭の実状に適した洗剤の使用濃度、洗浄方法を検討することは適正な使用をする上で大切である。台所用洗剤の洗浄力試験法は²~³考案されているが、いずれも洗剤の洗浄力を比較評価することを主体とした方法であり、かならずしも実用に即しているとはいえない。そこで実際に家庭でおこなわれている洗浄方法を考慮し、落ちたヨゴレが食器に再付着しはじめる点を洗浄力の限界としてとらえる再付着試験方法を用いてヨゴレの種類と量、及び洗剤濃度と洗浄方法との関係について検討した。モデルヨゴレとして一般に落ちにくい油性ヨゴレを用いた。

結果

- 1 洗浄力は、洗剤濃度が増すごとに高まるが、ある濃度でほぼ最大となり、一定となる傾向が認められた。
- 2 油性ヨゴレは、ヨゴレの融点が高くなるに従い洗浄力は低下するが、洗剤の濃度効果に比べて洗浄の温度効果の方がヨゴレ落ちに有効である。
- 3 洗浄力は洗浄液の量により変化し、洗浄液を増すことにより同一洗剤濃度でもヨゴレを多く落すことができる。